ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

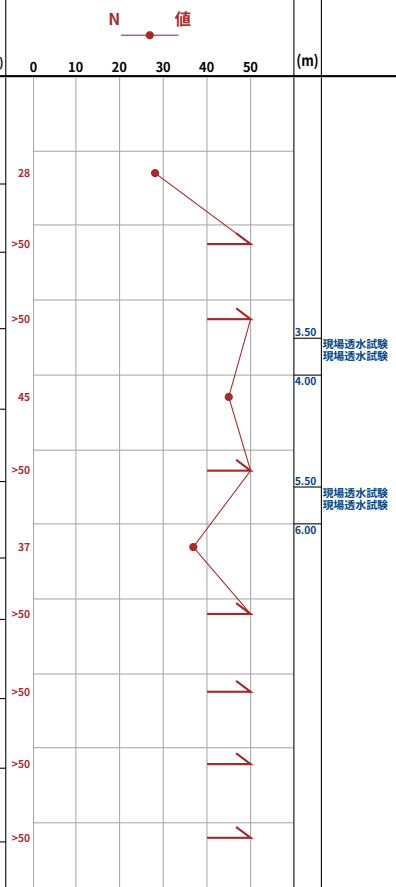
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	R3	調査位置				北　緯	36 ° 34 ' 06.2600 "
発 注 機 関	栃木県 真岡土木事務所			調査期間	2008-10-23 ～ 2008-10-24	東　経	140 ° 03 ' 04.3700 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	106.22 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	10.00 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	105.62	0.60	0.60		表土 (SF)	暗茶灰	中ぐらい		有機質シルト。上部0.30m位は礫φ10mm内外混入して乱された状態。		
1	105.22	0.40	1.00		砂礫 (GS)	暗茶灰			亜円礫φ5～30mm主に最大φ60mm内外。礫間は細～中砂とやや多くの細粒土分で充填。		
	104.62	0.60	1.60		礫混り砂 (S-G)	茶灰			中～粗砂を優勢する。下位にやや礫分増し砂礫状。亜円礫φ20mm内外主体。最大φ50mm位。緩い状態にある。		
2					砂礫 (GS)	灰茶	非常に密な		亜円礫φ5～30mm主体としてφ40～60mm位も比較的に多く散在する。コア長3～4cm(推定φ80～100mm位)の玉石を点在する。充填物は中～粗砂と細粒土分で埋め、所々に細粒土分やや多く含む箇所有り。		10/23 2.45
3											
4							密な		4.8m付近より茶色が強く徐々に細粒土分の含有増加が伺える。礫φ5～30mm，最大φ80mm内外。		
5							非常に密な				
						茶褐		固結した			
6	100.12	4.50	6.10								
	99.72	0.40	6.50		礫混り砂質粘土 (CHS-G)	淡褐灰			細砂を含み硬く固結化する。礫はφ5～20mmを少量混じる。		
7					粘土質砂礫 (GSC)	灰褐	非常に密な		亜円礫φ5～30mmを主体。最大φ70mm内外を認める。礫間は多くの細粒土分と細～中砂により非常に密な充填度合いにある。		
8									9.5m付近より細粒土分の減少が見られる。礫はφ20～40mmが目立つ。		
9											
10	95.97	3.75	10.25								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	8	10	10	28／30	28
1.45					
2.15	25	25		50／20	>50
2.35					
3.15	27	18	5／4	50／24	>50
3.39					
4.15	14	16	15	45／30	45
4.45					
5.15	20	17	13／7	50／27	>50
5.42					
6.15	10	12	15	37／30	37
6.45					
7.15	38	12／3		50／13	>50
7.28					
8.15	25	25／8		50／18	>50
8.33					
9.15	39	11／2		50／12	>50
9.27					
10.15	50			50／10	>50
10.25					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果
3.50	現場透水試験 現場透水試験
4.00	
5.50	現場透水試験 現場透水試験
6.00	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1.00	R3	A	土粒子の密度試験・土の粒度試験・地盤材料の工学的分類	
1.60				
				10/23
				10/24